

岡崎の未来に伝える100の物語

Vol.

1

H27年1月

岡崎百景、始動！



Contents

- 2 岡崎百景キックオフ
フォーラム1 レポート
- 4 岡崎百景キックオフ
フォーラム2 レポート
- 6 岡崎百景Q&A
- 7 推薦人と推薦候補一覧
- 10 百景推薦候補の分布
- 12 推薦文の書き方の手引き
- 14 写真撮影のポイント
- 15 四季折々の推薦候補を
見に行こう

■ 岡崎市市制施行100周年、市民が選ぶ岡崎百景

平成28年、岡崎市は市制施行100周年を迎えます。その節目の年に向けて、岡崎市は市民自らが新時代に継承すべき100の景観を選ぶ「岡崎百景」選定事業を実施します。

「〇〇百景」や「〇〇百選」は、全国各地、様々なテーマで選ばれており、岡崎市にも代表的な観光資源を集めた「岡崎観光きらり百選」があります。一方、「岡崎百景」の特徴は、いわゆる名所旧跡の類のみならず、書物に残らないような身近な「あたりまえ」の日常に潜む大切な景観や場面を、人との関わりと共に、岡崎の大切な資産として未来にリレーしていくとともに、新たな景観の創出にもつなげていくという点にあります。

岡崎市の景観まちづくりの取り組みの一つに位置付けられる「岡崎百景」では、未来に継承したい景観や場面を百景候補として推薦する「100人の推薦人」を募集し、一人ひとりの愛着や想いから市民の高い共感が得られたものを「岡崎百景」として選定し、その後も景観計画の各制度をもって保全・活用を図っていきます。

■ 岡崎百景キックオフフォーラム

去る11月24日(月・祝)、30日(日)に、岡崎百景の「推薦人」として応募いただいた延べ100名程度の皆さんにご参加いただき、「岡崎百景キックオフフォーラム」を開催しました(P2-5参照)。今後、2年後の市制施行100周年における「岡崎百景」選定に向けて、102人の推薦人の皆さんと共に、推薦する候補の検討、選定方法や展示会等の企画を練って行きます。

Report 岡崎百景キックオフフォーラム 1



“あたりまえ”のまちの魅力の見つけ方

見つける、守る

松隈 章先生 ギャラリーエークワッド
竹中工務店設計本部
聴竹居倶楽部代表

Data

日時：平成26年11月24日（月・祝）18:30-20:45
場所：岡崎市図書館交流プラザLibra301-303会議室
参加者：50名（うち推薦人43名）

2回シリーズの「岡崎百景キックオフフォーラム」の1回目には、昨年開催されたあいちトリエンナーレ2013のプロジェクト「岡崎百人百景」でもご協力いただいた、「百人百景」の仕掛人・松隈 章さん（ギャラリーエークワッド／竹中工務店設計本部／聴竹居倶楽部代表）をお招きしました。「“あたりまえ”のまちの魅力の見つけ方」と題して、『まちの魅力をいかに見つけ、守るか』についてご講演いただきました。

ある日、突然風景が消える

兵庫県神戸市（塩屋）在住の松隈さんは、1995年1月17日の阪神淡路大震災で、突然「風景が消える」体験をされました。駅前にあった細い路地と雰囲気のある魚屋は、道路が拡幅され魚屋はどこにでもありそうな普通の建物になり、あたりまえのようにそこにあった風景と共に、その場所への愛着が失われてしまったことをきっかけに、大切な風景を記録し、残すことの重要性を強く認識するようになりました。

普段何気なく観ている風景が、突然、愛おしくなってくる

松隈さんは、震災翌年に、神戸市旧居留地において行われたレンズ付きフィルム「写ルンです」を使った撮影会に着想を得て、1人1台「写ルンです」を持ち、100人で思い思いにお気に入りの風景を切り撮る「百人百景」というイベントを開始しました。

撮り直しの効かないカメラで27回シャッターを切るという行為を通じて、周りの環境を改めて見つめ直すと、「普段何気なく観ている風景が、突然愛おしくなってくる」という不思議な感覚に襲われます。こうして100人に撮影された数千枚の写真は、「昔懐かしい景色がまだ残っていた」「知っているつもりの方々の新たな魅力を発見した」「知らぬ間に愛着のある風景が失われてしまった」など様々な感情と共に風景の多様性を映し出します。

「百人百景」で「今」をじっくり見つめ直し、「過去」に向き合い、そして「未来」を見つめることで、「愛着ある風景」を思い描くことにつながっていくのです。

まちの「〇〇がかり」になる

京都府乙訓郡大山崎町にある「^{ちようちくきよ}聴竹居」は、大正から昭和にかけて活躍した建築家・藤井厚二が設計した、日本の気候・風土に適した環境共生住宅の原点とも言われる建物です。長い間、その価値が認識されずにいましたが、その歴史的・文化的価値に見出した松隈さんは、この建物の価値を広め、残すべく、聴竹居の「たてものがかり」を自任し、「聴竹居」倶楽部を設立し、一般公開を始めました。今ではこの建物の思想や環境工学的価値が知られるようになり、近所の方も清掃奉仕をしてもらえるようになり、一昨年には天皇皇后両陛下が来訪されるまでになりました。

塩屋にある築100年以上の洋館・グッゲンハイム邸は、異人館として長い間地元民に親しまれてきました。阪神淡路大震災で被災した後空き家となり、取り壊される危険性もありましたが、地元住民が購入・修復し、現在では貸館としてコンサートやウェディング会場として活用されています。

今、大切さが認知されていないまちの風景を守るためには、その価値に気づいた一人ひとりが「たてものがかり」や「路地がかり」「川がかり」「公園がかり」になって、その大切さを広め、周りの人たちの共感や協力を集めていくことが大切です。



■ 聴竹居（提供：松隈 章）



■ グッゲンハイム邸 (663highland)

Topic

岡崎百人百景と百景大撮影会

昨年度、あいちトリエンナーレ2013の「まちトリ」企画の一環として、参加者100人に1台ずつレンズ付きフィルム「写ルンです」12枚撮りを配布し、震災復興エリア（康生地区周辺）内で「発見」した魅力的な風景や気になるものを撮影し、約2,700枚の写真を展示する「岡崎百人百景」を行いました（協力：ギャラリーエークワッド、協賛：富士フイルム株式会社）。

「岡崎百人百景」は、景観まちづくりの啓発効果が非常に高く、参加者からも好評だったことから、今年度、対象地域を岡崎市全域に広げ、業西南北と中央の5地区において、各地区100人、総勢500人で岡崎の魅力を掘り尽くす「百景大撮影会」を、リタが運営する各地域交流センター、およびりぶら市民活動センターの事業として行っています。

■ 百景大撮影会 中央地域展示会

平成27年1月22日～2月21日まで、岡崎市図書館交流プラザ・りぶら2F展示スペースにて開催しています。



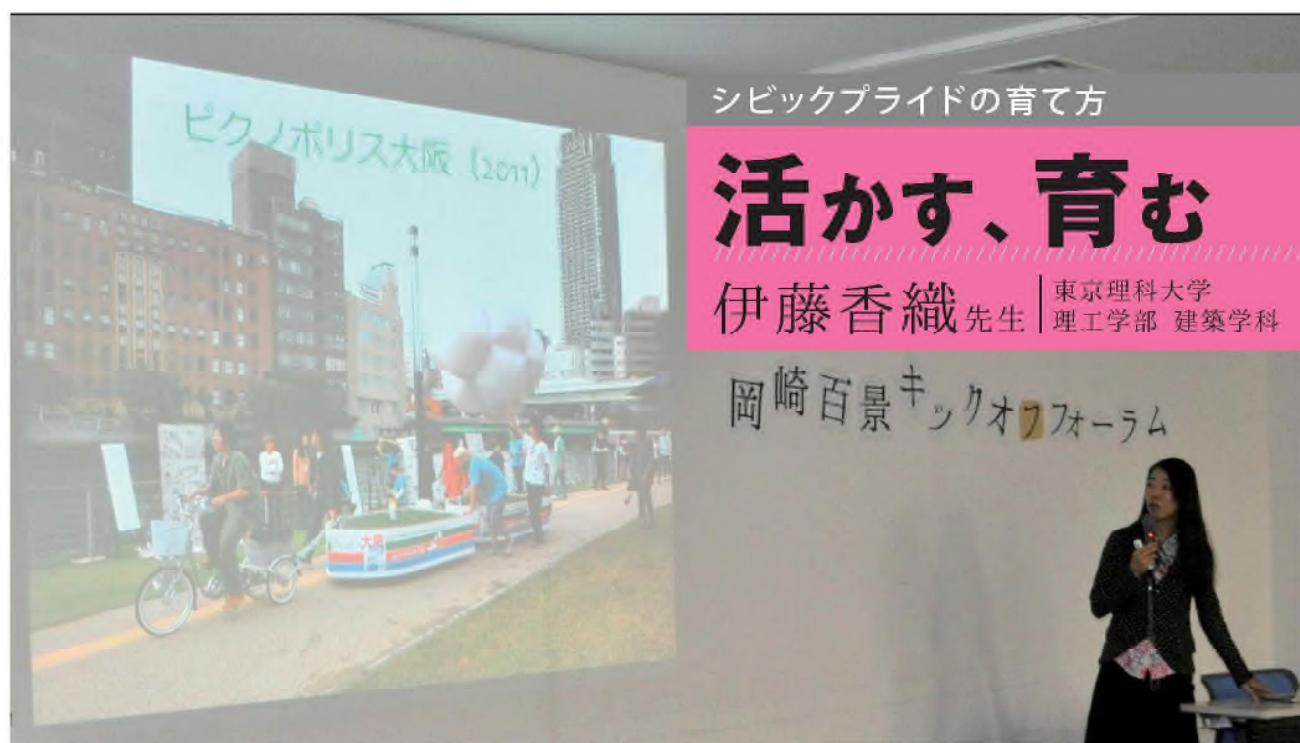
■ 岡崎百人百景展示会
（旧セルビ解体工事現場仮囲いにて）

推薦人へのメッセージ

2年間かけて岡崎のまちの魅力を掘り起こしていき、喧々譁々の議論を経て百景を選ぶ共同作業を通じて、一人ひとりの宝物がみんなの宝物になっていくというプロセスが大事です。そして百景が決まった後に、皆さん一人ひとりがそれぞれの景観を守る「〇〇がかり」を担っていくことで、岡崎の景観が守られていくといいと思います。

みんなが岡崎百景の一つひとつに込められた記憶と風景を語れるようになることが、他にない岡崎のまちの魅力を発信する原動力となります。ぜひ岡崎百景を使って、岡崎の魅力を日本に、世界に発信して行ってください。

Report 岡崎百景キックオフフォーラム 2



シビックプライドの育て方

活かす、育む

伊藤香織先生 | 東京理科大学 理工学部 建築学科

岡崎百景キックオフフォーラム

Data | 日 時：平成26年11月30日（日）18:30-20:45
場 所：岡崎市図書館交流プラザLibra301-303会議室
参加者：66名（うち推薦人51名）

キックオフフォーラム2では、著書「シビックプライド—都市のコミュニケーションをデザインする」や、公共空間のあり方や活用法について問い直す「東京ピクニッククラブ」の活動などで著名な伊藤香織先生（東京理科大学）をお招きしました。「シビックプライドの育て方」というテーマで『まちの魅力をいかに活かし、育むか』についてお話しいただきました。

■ 伊藤香織（共著）「シビックプライド—都市のコミュニケーションをデザインする」宣伝会議



シビックプライドとは

「シビックプライド (Civic Pride)」は、聞き馴染みがないかもしれませんが、都市に対する誇りや愛着を意味します。その都市をより良い場所にするために自分自身が関わっているという「当事者意識」を伴う自負心とも言えます。イギリスのバーミンガム市では、「You are your city (=あなた自身があなたのまちなのです)」というスローガンを掲げて、「シビックプライド」を育むキャンペーンを行っています。岡崎に置き換えれば、岡崎市民が「岡崎はわたしだ!」と思えることが大切です。伊藤先生には、世界各地で行われているシビックプライドの育て方の事例紹介を通じて、「まちと私の関係をいかに築くか」のヒントをいただきました。以下にその一部をご紹介します。（詳しくは、著書「シビックプライド」を参照ください。）

まちを知る：オープンハウス・ロンドン

ロンドンでは、毎年9月に市内の新旧様々な700以上の建築物（オフィスビル、個人住宅、工事現場など）が無料で一般公開（オープンハウス）されます。オープンハウスを通じて、参加者は都市の豊かな建築資源を知ることができると同時に、所有者は自ら建築を語ることで、誇りと愛着を深めることにつながっています。



Open House London (Edward)

まちを言祝ぐ：ミュージックビデオ「Grand Rapids LipDub」

アメリカのグランドラピッズ市 (Grand Rapids) では、ニュースウィーク誌に「アメリカの死にゆく都市ベスト10」に同市が選ばれたことに市民が憤慨し、5,000人超の市民が一致団結、地元企業が撮影費用を提供して、グランドラピッズの中心街の名所を巡るようにフナカットで撮影したミュージックビデオ（既存の曲に合わせて市民が変わるがわる口パクで出演）を撮影。Youtubeで500万回以上再生され、世界中で大きな反響を呼びました。（Youtubeで「Grand Rapids LipDub」で検索すると視聴可能）

まちに参加する：富山

富山では、路面電車（ライトレール）の車体を、公募したイラストやメッセージをデザインしてラッピングしたり、道路にみんなで「おえかき」をするなどして、景観に参加する取組みが行われています。

まちに関与する：ポートランド

ポートランドの中心広場パイオニア・コートハウス・スクウェアの地面を覆うレンガは、市民の寄付により調達され、レンガ一つひとつには寄付者の名前が刻まれています。こうして「この広場は私のものでもある」という感覚が生まれ、市民に親しまれる場所となっています。

まちを所有する：バルセロナ

多くの若手デザイナーが活躍するバルセロナでは、まちを彩るパナール（宣伝用フラッグ）が使用後にデザイナーに安価で提供され、バッグなどのプロダクト（商品）となることで、「まち（を宣伝するフラッグ）を所有する」ことができます。

まちそのものになる：I amsterdam宣言

アムステルダムでは、「自分がまちそのものである」というメッセージを「I amsterdam」というスローガンに込め、まちなかに巨大な立体ロゴを設置（訪れた人が写真を撮る名所となっている）や、アムステルダムのありのままの姿こそが、誇るべきまちの姿であることを伝える写真集の発行などを通じて、まちへの誇りを喚起しています。



I amsterdamの立体ロゴ (Matt Rubens)

Topic

東京ピクニッククラブ

伊藤先生は、まちなかの空間は、もっと自由に楽しく使えるはずなのに、使う側が可能性を狭めてしまっているという問題意識から、公園、河辺、大学キャンパス、道路の中央分離帯など様々な場所でピクニックを行う「東京ピクニッククラブ」を主宰されています。ピクニックは社交の場であることを意識し、ワインを紙コップではなくワイングラスで、ちょっとおしゃれなシートやバスケットと一手間かけた食べ物などで演出し、自分たちがその場所の魅力を引き出す風景の一部となり、都市の空間の可能性を広

げる活動を展開されています。岡崎でも康生の籠田公園で、同様のピクニック活動が始まっています。ぜひ皆さんも身近なところでピクニックをしてみませんか。



ピクニック横浜 (提供: 伊藤 香織)

推薦人へのメッセージ

推薦人の皆さんのお話を聞いて、推薦したい場所一つひとつに、それぞれの思い出や見方があることが印象的でした。シビックプライドを育むためには、「まちと私の関係」をみんなで共有することが大切です。一緒に見たり、触ったり、経験したりできることがまちなかにたくさんあることが、「岡崎が岡崎市民のものになる」ことにつながっていきます。岡崎百景は、そのための媒体になるとよいと思います。

「〇〇から見る△△」や、おすすめの時間・季節を具体化するの面白いと思います。百景の写真を見るだけでなく、見た人が追体験できるよう、「岡崎百景の日（たとえば、1年に土日が104日あるので、百景それぞれのおすすめの日をすべての週末に割り当てる）」を決めて、それぞれの日にそれぞれの場所でピクニックをしてはいかがでしょうか。

子どもの推薦人がいないので、百景を大切な未来につなげるために、うまく子どもたちを巻き込むことをぜひ考えてみてください。

Pick up 岡崎百景 Q & A

キックオフフォーラムで推薦人の皆さんからいただいたご質問に対する回答を掲載します。百景候補を検討する上での参考にしてください。

Q1 岡崎公園の中でもたくさん推薦したい場所があるのですが、具体的にしないといけませんか？

A1 どこから(視点場)、何を見てほしいのか(視対象)を具体化し、分けるべきものと統合できるものを整理した上で(必要に応じて複数案に分けることも可)、推薦してください。

Q2 写真を一枚に絞り込むことが難しいです。推薦人会議に複数枚候補を持参して意見をもらうことは可能ですか？

A2 H27年度推薦人会議で、掲載写真の候補と推薦文案を推薦人同士で話し合う機会を設けますので、推薦人会議の場をご活用ください。

Q3 私の提案は「東大友町・西大友町の大友神社&遺跡&古墳」となっており、複数の景観になっております。この中で、順番付けをするとすれば、一番は大友皇子古墳と考えております。全体をとらえる名称としては「大友皇子遺跡群」となりますが、どのように進めるのがよいのでしょうか？

A3 推薦する対象を吟味し、分けるべきものと統合できるものを整理した上で(必要に応じて複数案に分けることも可)、推薦してください。この場合、「大友皇子遺跡群」全体を対象とし、写真を複数枚ご用意いただいた上で1枚に絞り込み、推薦文で古墳群について記述するという方法はいかがでしょうか。

Q4 建物を撮るときに許可を取るとの事ですが、どなたに許可を取れば良いかわからないときは相談してもよいですか？

A4 はい。相談窓口(岡崎市都市計画課、岡崎まち育てセンター・りた)までお問い合わせください。

Q5 推薦人会議で話し合う時にコメントだけではわかりづらいので写真などでの説明が必要では？

A5 はい。6月の推薦人会議には、推薦する候補の写真(暫定版、対象期間外に撮影したものでも可)と推薦文(案)をお持ちください。

Q6 1年間の推薦期間中に写真を変えていけるのですか？

A6 はい。H27年度推薦人会議で、掲載写真の候補を持参いただき、推薦人同士で話し合う機会を設けます。

Q7 複数箇所推薦はできますか？ この一年間で推薦する場所が変わってよいですか？

A7 複数箇所の推薦は可能ですが、特に思い入れのあるものに絞り込んでください。百景候補は6月の推薦人会議までに決定してください。

Q8 現在選ばれているものだけでは、岡崎の基本的な景色が抜けている気がしますが？

A8 既に岡崎市の名所・旧跡を網羅した「岡崎観光きりり100選」があり、岡崎百景では、そうしたものを網羅することよりも、市民一人ひとりが残したいと思う景観を市民全体に伝え、共感を広げていき、残し、活かすための活動につなげることに重きを置いています。また、p.10-11の皆さんが追加を検討されている場所の一覧の通り、今後推薦される候補が増える可能性があります。他にも岡崎の基本的な景色として推薦したいものがある場合はさらにご検討ください。

Pick up 推薦文の書き方の手引き

岡崎百景は、推薦人から挙げられた「百景候補」の中から、市民投票等を経て選定されます。100以上の候補から選んでいただくにあたり、その場所の魅力を伝える1枚の写真はもちろん、簡潔な文章で訴えかける必要があります。写真と合わせて、どんな魅力を一番伝えたいか、「その場所に行ってみよう」「その景観を守っていききたい」という共感を得られるよう、文章を作成してください。

推薦文作成にあたり、下の質問の答えを思い浮かべて特に強調したい内容を簡潔にまとめてください。

- 1 その景観・場所が最も魅力的に見える時間帯、季節はいつですか？
☞具体的にぜひ見てもらいたい季節や時間帯を伝えましょう。
- 2 その景観・場所の一番の思い出は？
☞写真との相乗効果を考慮し、その場所の雰囲気が思い浮かぶよう工夫しましょう。
- 3 そこへ行くと、どんな気持ちになりますか？どんな気分のときに行きたくなくなりますか？
☞景観とは、そこに映し出された『自然』、『歴史』、『暮らし』の積み重なる風景です。そこに写真だけでは伝わらない「あなたの大切な思い出や思い出」を重ねることで、人々の共感や愛着が得られるように表現してください。
- 4 その景観・場所が将来どうなっていて欲しいですか？
☞その景観・場所は、そこでくらしした人々の営みや記憶のつながりによって支えられています。あなたとその場所の関わりについて、どうあるべきかを考え、その思いを記しましょう。
- 5 その他
☞その場所ならではの自然、歴史、暮らしの積み重なりを表したり、その景観にあてた手紙風の文章にしたり、思い思いに工夫を凝らしてみてください。

Column 岡崎百景のチラシの景観



岡崎百景推薦人募集のチラシに使われた景観には、どのような意味が込められていたか、わかりますか？

オカザえもんが立つこの道路は、かつての東海道の「二十七曲り」があった通りです。終戦間際の岡崎空襲により、江戸のまちなみは灰燼に帰し、災害に強いまちを目指して、康生周辺の道路の多くは拡幅されましたが、ここはかつての二十七曲りの幅員がそのまま残っている数少ない道なのです。

オカザえもんが望むその先には、岡崎の昭和の象徴とも言えるデパート「シビコ」が行んでいます。昭和40年代に、康生通西一帯は、民間施行第一号の再開発により生まれた商業地区として、全国的に注目を集め、西三河の商業の中心として栄えましたが、当時4つあったデパートビル群は、シビコを残して姿を消しました。

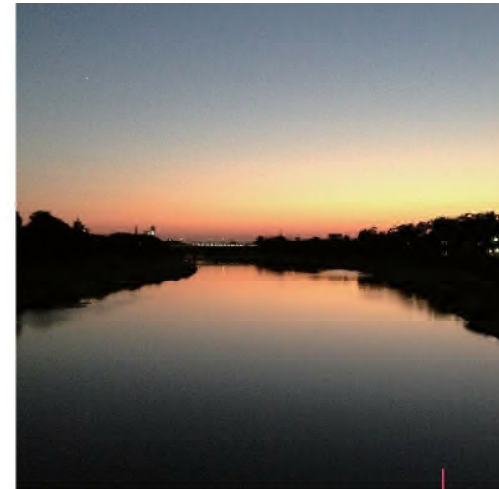
この一見何の変哲もない「あたりまえ」の景観には、「江戸」の二十七曲り、「昭和」のシビコ、そして「平成」に誕生したオカザえもんの3つの時代の積み重なりが隠されているのです。

■ 例文

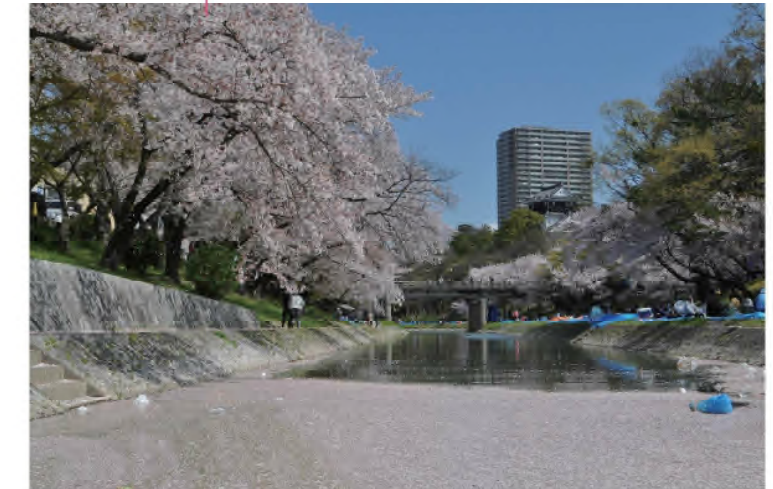
伊賀川の川面から見る桜のトンネル (16字)

- 1 最も魅力的に見える時間帯、季節
伊賀川の桜は、散り始めがおすすめです。
- 2 その景観・場所の思い出
乙川河川敷から手漕ぎボートに乗って伊賀川に入ると、川面は花びらのじゅうたん、頭の上には桜の枝が覆いかぶさるように迫り、桜のトンネルの先には岡崎城！
- 3 その景色を見るとどんな気持ちになるか
この景色はあと何回見られるだろう。
- 4 その景観・場所の将来像
世界に誇れるこの風景を、未来を背負うおかざきっ子たちに受け継いでいきたい。
(137字)

写真と推薦文の関係を意識する



写真と推薦文の関係を意識する



心にしみる黄昏の乙川と名鉄電車 (15字)

- 拝啓
- 1 最も魅力的に見える時間帯、季節
オレンジから紫に変わっていく空を写しこむ水面。時折、緑の高架を赤い列車が通り過ぎていくさまは、子どものころから変わらない、私にとって一番のふるさとの景色です。
 - 2 その景観・場所の思い出
小さいころ、川の流れて浮かべた葉っぱと追っかけっこしたのを覚えていますか。
 - 4 その景観・場所の将来像
額田の山から集まって、矢作の流れと合わさって海へ抜けていくこの川を、日本一の清流にして、未来に手渡したいです。
 - 5 その他：その景観にあてた手紙風の文章
(175字)
- 敬具

相談窓口

岡崎市都市整備部都市計画課景観推進班(岡崎市役所西庁舎1F)

TEL:23-6263 FAX:23-6514 E-mail:toshikei@city.okazaki.aichi.jp

岡崎まち育てセンター+りた

TEL:23-2888 FAX:23-2898 E-mail:info@okazaki-lita.com

Pick up 写真撮影のポイント

百景を選定していくにあたり、写真によって印象が大きく変わります。いつ、どのような状況を、どんな角度で、どんな風景を撮影するかを検討ください。写真撮影時のポイントをいくつか紹介します。

Point 1 写真に人物は写っているか



人物が写っていない写真からはどこか寂しい印象を受けませんか？あなたが推薦する景観の未来の様子をイメージしてみてください。文章だけでなく、写真にもメッセージを込めましょう！

Point 2 被写体に近づきすぎているか



岡崎百景では“景観”や“場面”が対象となります。被写体に近づきすぎて、肝心な景観や場面が写っていない…なんてことはないでしょうか？美しい花は、ただ花だけがそこにあってもその魅力は十分に伝わりません。背景があることで初めてその魅力に気づくことができます。

また、ある程度引いた視点で撮ることで撮影後でも自由に切り抜くことが可能ですのでオススメです。

Point 3 その他のポイント

- ① **光について**…撮影する時間帯や天候によって変化する光の加減に気をつけましょう。日中の真上から降り注ぐ光を使うと色鮮やかな見た目に近い自然な感じの写真が撮影でき、早朝や夕暮れの斜めの光は写真をドラマチックに演出してくれます。推薦する景観・場面が最も魅力的に撮れる光を探してみましょう。
- ② **手ブレとフラッシュの使用について**…撮影時はしっかり脇を締めて足を広げ、安定した姿勢で撮ることでブレを極力防ぎましょう。夜間や屋内で撮影される場合は光が不足しているため、フラッシュを使用しましょう。夜景はフラッシュなしの方がキレイに撮れることがありますが、手ブレしやすいので三脚の使用をオススメします。
- ③ **構図について**…縦横どちらの構図で撮影したら被写体の魅力が最も伝えられるか、実際に両方の構図で撮影して比べてみましょう。
 - ☞ 横構図は被写体の広がり感や安定感を強調したいときによく使われます。
 - ☞ 縦構図は被写体の高さや奥行きを強調させたいときに使われます。

Pick up 四季折々の推薦候補を見に行こう

キックオフフォーラムで挙げられた百景候補のオススメの季節・時間帯をピックアップしてご紹介します。今後、皆さんから寄せられたベストシーズン情報はニュースレター等を通じてご案内していきます。四季折々にいろいろな表情を見せる百景候補を訪れてみませんか？

冬	2	Coming soon ! 近日開催<2月21日(土)>	滝山寺(東照宮)と滝仁王門 滝山寺鬼まつり(火まつりは午後7時45分頃からのスタート)	(滝町)
	3	<2月末から>	竜美丘会館裏乙川堤防(春の菖蒲)	(東明大寺町と大西町)
		<3月22日(日)>	松應寺横丁にぎわい市	(松木町)
春	4	<4月~5月>	岡崎公園の桜	(康生町)
		<4月中旬>	北山湿地と里山風景(飛び交うギョウジャ・草花)	(北山町)
	<4月中旬>	上地八幡宮うこん桜	(上地町)	
	5	<5月第二日曜日>	能見神明宮大祭	(能見町)
		<5月>朝早い時間	伊賀八幡宮周辺の5月の桜 夏山小学校校舎(春の桜) なのはな遊歩道(春の菜の花、鯉のぼり)	(伊賀町) (夏山町) (赤波町)
6	<春から夏>	旧額田地区(自然な風景)	(おとがわ溪流から壱山地区)	
夏	7		土呂八幡宮(小鳥のさえずり等) なのはな遊歩道(夏のひまわり)	(福岡町) (赤波町)
		<7月中旬>	御田扇祭(田の緑の中を通る行列、花笠)	(六ツ美地区)
	8	<8月第一土曜日>	奉納花火(岡崎観光夏まつり花火大会共催)	(康生町)
		<夏の終わりごろの午後、夕日に変わる少し前>	美合の小径(ひっそりとした佇まい)	(美合町)
	9	<9月20日頃から>	葵大橋から見た矢作川越しの岡崎(夏の風にそよぐ稲穂)	(細川町)
秋	10	<10月2日>	なのはな遊歩道(秋のコスモス)	(赤波町)
		<11月の第一土・日>	竜美丘会館裏乙川堤防(秋の彼岸花)	(東明大寺町と大西町)
	<11月の第一土、日曜日>	山車と旧東海道	(矢作町)	
	<11月下旬>	岡崎ジャズストリート	(康生界隈)	
	<11月下旬~12月初旬>	上地八幡宮(上地八幡宮大祭)	(上地町)	
	<11月下旬~12月初旬>	真福寺(秋の紅葉)	(真福寺町)	
11	<11月下旬~12月初旬>	美合町川田の紅葉風景	(美合町川田)	
	<秋の朝方、夕方>	商工会議所通り(ケヤキ並木の紅葉)	(伝馬通り)	
1	11	<12月26日>	二十七曲りから見た景観	(伝馬通り)
			竹千代祭り	(康生町)
	12		山車と旧東海道	(矢作町)
			恵田町落ち葉スキー場	(恵田町)
			稲前神社で行われている神事	(稲熊町)
1	12		長瀬八幡宮(鎮守の森)(秋の紅葉)	(森越町)
			夏山小学校校舎(秋の紅葉)	(夏山町)
		仏日山永泉寺(秋の紅葉)	(能見町)	
		龍城橋から見た岡崎城、岡崎公園(秋の紅葉)	(康生町)	
	1		なのはな遊歩道(冬の水仙)	(赤波町)

Column 自然・歴史・くらしが積み重なる生活景

わたしたちの日常的なくらしを反映するものであると同時に、地域の風土や歴史文化に根ざした生活を通じて生み出されてきた眺めのことを「生活景」といいます。

観光地のような景観もなく、際立った印象を受けないとしても、そこには生活の営みが色濃く滲み出た、その地域ならではの眺めがあり、それは地域のコミュニティにより育まれてきた、地域の景観の地模様となるものです。

景観は、物理的に見えている景色に加えて、その土地ならではの歴史や文化を知ると、ぐっと見え方も評価も変わってきます。

観光の対象となるような歴史的な町並みの保全、都市の顔となるような都市景観の創出が主流であったこれまでの景観形成に加えて、平成16年に制定された景観法を契機に、どこにでもあるようなまちの景観（＝生活景）が、実はその場所の風土や歴史文化といった地域性を読み解く上で、とても重要なものであるとの認識が高まっています。

岡崎百景では、「岡崎市景観計画」に基づき、固有の気候や地形といった『自然』と古くからの人の営みの『歴史』、そして現代の建物やまちなみ・いきいきとした『くらし』の要素からなる空間・時間の積み重ねを大切に、未来に受け継いでいく景観を残し、活かしていく活動につなげていくことを目指しています。

Information

岡崎百景推薦人 **交流会** (参加任意)

日時 平成27年3月21日(土) 14:00-16:00 (終了予定)

場所 竜美丘会館(岡崎市東明大寺町5-1)4F末広の間～乙川堤防の葵桜

内容 竜美丘会館に集合し、百景候補に挙げられている「乙川堤防の葵桜」を見ながら、この景観づくりに尽力されている推薦人・三橋さんのお話を伺います。その後、推薦人の懇親を目的とした交流会をピクニック形式で開催します。

持ち物

- ・推薦場所のPR用の写真やチラシなど
- ・ご自身のお飲物
- ・軽食(一品持ち寄り)
- ・ちょっとおしゃれなシート
- ・楽しむ心

岡崎百景推薦人 **会議** (参加必須) ※時間が午前から午後に変更になりました。

日時 平成27年6月14日(日) **13:30-16:00** (終了予定)

場所 岡崎市福祉会館(岡崎市朝日町三丁目2)6Fホール

内容 百景候補の写真(暫定版)および推薦文(案)をお持ちいただき、作業の進捗の確認および意見交換を行います。なお、**当日10～12時まで、同会場で相談窓口を開設**しますので、会議に参加できない方も、ぜひご利用ください。

岡崎百景通信 Vol.1

発行:岡崎市都市整備部都市計画課(岡崎市十王町二丁目9番地)

TEL:23-6263 FAX:23-6514 E-mail:toshikei@city.okazaki.aichi.jp

発行日:平成27年1月16日

編集:特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・リタ

TEL:23-2888 FAX:23-2898 E-mail:info@okazaki-lita.com